

[省令第8条の4の5（1,000トン以上排出事業者用）]

様式第2号の8（第8条の4の5関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和7 年 6 月 6 日	
(宛先) 長野市長 殿	
提出者	
住 所 名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル19階	
氏 名 戸田建設株式会社名古屋支店	
執行役員支店長 石田 亮	
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 052-228-2381	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	戸田建設株式会社名古屋支店
事業場の所在地	当該管轄事業場
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合建設業
② 事業の規模	完工高 29,309（百万円） ※名古屋支店
③ 従業員数	323名 ※名古屋支店 2024年3月1日現在
④ 産業廃棄物の一連の処理工程	別添1 処理工程図のとおり

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別添2 管理体制図のとおり

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】						
	産業廃棄物の種類						
	排 出 量	別紙1 集計表のとおり					
	産業廃棄物の種類						
	排 出 量						
	（これまでに実施した取組） （建築部門） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 梱包材の削減（見積条件書に記載）</li> <li>・ 有価物での搬出（スクラップ、ダンボール、電線など）</li> <li>・ 高いリサイクル率の処分施設の活用（処分施設のリサイクル率をヒアリング）</li> <li>・ 広域認定のメーカーリサイクルの活用（石膏ボードなど）</li> <li>・ 木製型枠の変更（鋼製型枠、ラス型枠、樹脂型枠、デッキ型枠の採用）</li> </ul>						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類						
	排 出 量	別紙1 集計表のとおり					
	産業廃棄物の種類						
	排 出 量						
	（今後実施する予定の取組） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汚泥の場内再生利用の実施（場内に天日干しスペースを確保できる作業所）</li> <li>・ 設備・電気工事資材のプレカット化（ダクト、配管、電線等）</li> <li>・ 設備・電気工事資材のユニット化（ダクト、配管）</li> </ul>						

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分別している産業廃棄物の種類：主に、がれき類、コンがら・アスコンがら、廃プラスチック類、金属くず、木くず、紙くず、汚泥、廃石膏ボード等に分別している。さらに金属くず・紙くずはスクラップ・段ボール等の有価物や専ら物に分類している。廃石膏ボードは新築系と解体系に分けるなどして対応している。</li> <li>・ 分別に関する取組：分別ヤードの整備、協力会社への周知徹底等により、分別の徹底を図っている。</li> </ul>
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後分別予定の産業廃棄物の種類：吹付断熱材など。</li> <li>・ 分別に関する取組：広域認定制度のメーカーリサイクルを活用し、上記品目を分別する。</li> </ul>

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】						
	産業廃棄物の種類						
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙1 集計表のとおり					
	産業廃棄物の種類						
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量						
	(これまでに実施した取組) 該当なし						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類						
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙1 集計表のとおり					
	産業廃棄物の種類						
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量						
	(今後実施する予定の取組) 該当なし						

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】						
	産業廃棄物の種類						
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙1 集計表のとおり					
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類						
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類						
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙1 集計表のとおり					
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類						
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量						
(今後実施する予定の取組) 該当なし							

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】						
	産業廃棄物の種類						
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙1 集計表のとおり					
	産業廃棄物の種類						
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
	(これまでに実施した取組) 該当なし						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類						
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙1 集計表のとおり					
	産業廃棄物の種類						
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						
	(今後実施する予定の取組) 該当なし						

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】						
	産業廃棄物の種類						
	全処理委託量	別紙1 集計表のとおり					
	優良認定処理業者への委託量						
	再生利用業者への委託量						
	認定熱回収業者への委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						
	産業廃棄物の種類						
	全処理委託量						
	優良認定処理業者への委託量						
	再生利用業者への委託量						
	認定熱回収業者への委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						
	(これまでに実施した取組)						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規に産廃処理を委託する予定の施設は必ず現地確認を実施し、適切と判断した場合に限り委託契約を行っている。</li> <li>作業所が安心して産廃処理委託できるよう、実績と信用があり財務内容も健全な優良認定を受けている処理業者を「支店推薦業者」として地区ごとに選定し、支店が年1回現地確認を実施することで管理している。</li> <li>自社システム（環境管理システム）の運用開始（2018/04～）を機に、電子マニフェストの使用100%を達成済み・電子委託契約の普及を95%を支店目標（建築部門）とし電子化を進めている。</li> </ul>						

【目標】							
②計画	産業廃棄物の種類						
	全処理委託量	別紙1 集計表のとおり					
	優良認定処理業者への処理委託量						
	再生利用業者への処理委託量						
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
	産業廃棄物の種類						
	全処理委託量						
	優良認定処理業者への処理委託量						
	再生利用業者への処理委託量						
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
	(今後実施する予定の取組) ・再生利用（マテリアルリサイクル）が可能である廃棄物は、再生利用（マテリアルリサイクル）ができる業者へ委託する。 ・行政から優良認定を受けている、更にリサイクル率の良い処分業社を開拓していく。 ・広域認定制度のメーカーリサイクルの利用を促進していく。 ・環境管理システムの目的の一つは、産業廃棄物排出に関する不具合の防止、電子マニフェスト、電子委託契約の普及である。収集運搬・処分業者に電子化の協力を依頼する。 ・作業所は支店推薦業者を利用するよう周知徹底させる。						
	※事務処理欄						

(第6面)

備 考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が12以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。  
また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1

産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

処 理 事 項		産 業 廃 棄 物 の 種 類（実績値・計画値）																		合 計
		汚泥(上・下水、建設、その他)	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡スチロール等)	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	がれき類(コンクリがら、廃プラスチック等)	建設混合廃棄物(安定型、管理型)	紙くず	木くず											
排出抑制に関する事項	前年度排出量(実績)	64.00t	9.15t	1.62t	11.90t	5,637.36t	2.88t	0.27t	86.96t										5,814.14t	
	本年度排出量(計画)	57.60t	8.24t	1.46t	10.71t	5,073.62t	2.59t	0.24t	78.26t										5,232.72t	
自ら行う(行った)再生利用に関する事項	前年度実績	—	—	—	—	—	—	—	—											
	本年度計画(目標)	—	—	—	—	—	—	—	—											
自ら行う(行った)中間処理に関する事項	自ら行う(行った)熱回収の量 自ら中間処理により減量する(した)量	前年度実績	—	—	—	—	—	—	—											
		本年度計画(目標)	—	—	—	—	—	—	—	—										
		前年度実績	—	—	—	—	—	—	—	—										
		本年度計画(目標)	—	—	—	—	—	—	—	—										
自ら行う(行った)埋立処分又は海洋投入処分に関する事項	前年度実績	—	—	—	—	—	—	—	—											
	本年度計画(目標)	—	—	—	—	—	—	—	—											
処理の委託に関する事項	全処理委託量	前年度実績	64.00t	9.15t	1.62t	11.90t	5,637.36t	2.88t	0.27t	86.96t									5,814.14t	
		本年度計画(目標)	57.60t	8.24t	1.46t	10.71t	5,073.62t	2.59t	0.24t	78.26t									5,232.72t	
	優良認定処理業者への処理委託量	前年度実績																		
		本年度計画(目標)																		
	再生利用業者への処理委託量	前年度実績	64.00t	9.15t	1.62t	11.90t	5,637.36t	2.88t	0.27t	86.96t									5,814.14t	
		本年度計画(目標)	57.60t	8.24t	1.46t	10.71t	5,073.62t	2.59t	0.24t	78.26t									5,232.72t	
	認定熱回収業者への処理委託量	前年度実績																		
		本年度計画(目標)																		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	前年度実績																		
		本年度計画(目標)																		

【記載方法】

- 各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の上段に前年度の実績（現状）を、下段に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- 「自ら行う再生利用に関する事項」の欄は、自ら直接再生利用した量と中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- 「自ら行う埋立処分又は海洋投入処分に関する事項」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。
- 「処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量及びそれぞれの内訳を記載してください。